

## 第2回

## 「芸術家は自分を信じ綿密に考える」

創造 立体造形作家 最上 寿之

前衛芸術家の最上寿之氏は1936年（昭和11年）神奈川県横須賀に生まれ、東京芸術大学彫刻科を卒業後、大きな立体造形物を各地に造っています。熱海駅と湯河原駅の間にある海辺のミカン山に建つ自宅にインタビューに伺いました。



写真1 「モクモク ワクワク ヨコハマ ヨーヨー」

代表的な作品としては横浜みなとみらいに、題名「モクモク ワクワク ヨコハマ ヨーヨー」があります。ステンレス製の巨大な造形物はランドマークタワーとクイーンズタワーAとの間の広場にあり、観光客が上を見上げ、子どもたちは造形物の下を駆け回っています。その巨大な躍動感と周囲の高層ビルにも負けることはありません。夜はライトアップされ不思議な雰囲気を醸し出しています。題名もカタカナで読んだときの響きもおもしろく印象に残る作品です。



写真2 夜の「モクモク ワクワク ヨコハマ ヨーヨー」

## 一とても大きな作品ですね。

横浜みなとみらいは、三菱重工のドックがあった場所です。都市開発することになり、そこに彫刻を造ることになりました。依頼者から100以上の要求項目が出されました。彫刻の周囲には高層ビルが出来ることが予定されていたので、21世紀を先取りして、横浜の元町からランドホテルまで眺望できる新しい都市景観を理想としていました。「横浜から湧き上がるモクモクとした雲が良いのではないか」ということになり巨大な造形物を造ることになりました

（1986年みなとみらい21彫刻展優秀賞）。デザインの構想は自分の思うことを信じていますから、すぐに出来上がったのですが、このような大きな作品は、強度的にも地震に耐えることが必要ですので、綿密な準備が必要でした。

東日本大震災後、安全の観点からこのような巨大な彫刻は造るのが難しくなってきました。幸い「モクモク ワクワク ヨコハマ ヨーヨー」は大震災の影響はありませんでしたが、神戸にある私の作品は大きな御影石を立ててあったのですが、いまは寝かせてあり

ます。安全面に配慮して絶対に倒れないようにすることはかなり難しいのだそうです。

作品の構想を練っているときは、大変楽しい時間です。アイデアが次々に湧いてきます。設計図もその場で何枚も描きます。この作品は上質のステンレスを用いて、若干光沢を押さえていますが、光があたれば輝きます。雨が降ったときのことを考え、水の流れを検討しています。ただ、一箇所だけですが、水がたれてくるところがあったと思います。

### —この作品は何をイメージしたのですか。

良く聞かれる質問ですが、前衛的な作品ですので、この世の中に存在するものを特にイメージしたものではありません。強いて言えば、ヨコハマから沸きあがる雲や宇宙をイメージしたもので、この世にはない超越した宇宙の植物と想像していただいてもいいです。彫刻の各所にライトが付いていますが、植物の実のようにも見えます。彫刻の題名は、皆が集まると地方の言葉で「なににないでヨー」と語尾につける「ヨー」をもじったものです。玩具のヨーヨーではありません。しかし、作品から玩具をイメージしていただいても構いません。



写真3 熱海の自宅

### —芸術家を志したきっかけは。

1936年（昭和11年）に神奈川県横須賀市に生まれました。戦時中でしたから、小学生になってすぐに母親の実家の福島県相馬郡に疎開していました。そこで小学校3年まで過ごしました。何も無い時代でしたので、野山で遊び、絵を描いたりすることぐらいしかすることはありませんでした。絵を紙に鉛筆で書くのですが、そのうちに紙が無くなると地面に書いていました。何を書いていたかという「食べ物」なんです。腹が空いていたのでしょうね。カレーライスやチョコレートなどの食べたい物を書いていました。最初の頃は大きく書いていましたが、だんだん絵が小さくなったのを覚えています。

絵を描くことは好きでしたので、東京芸術大学の彫刻科に入学することを家族に報告しました。しかし、皆から反対されました。重要な話は食事の時にするのが良いだろうと思い、食事をしながら皆に話したのですが、兄達から皿が飛んできました。芸術家では生活ができないのではないかという心配があったのだと思います。

しかし、自分では芸術の道に進むしかないと思っていました。ただ、その思いだけでした。母から軍資金をもらい、家を出て彫刻家の道を進んできました。

### —作品をつくる時に信じるものは何ですか。

最後まで信じるものは、「自分の考え」です。自分で思っていることを表現することが大切です。前衛芸術家として、超越した新しいものを作り出そうと思っていますので、構想を練っているときは実に楽しい時間です。



写真4 リビングの色えんぴつ

しかし、自信を持って造った作品でも売れないことがあり、東京湾の夢の島に廃棄処分になった作品が沢山あります。私の作品は大きいものが多く、材料費、運搬費、製作費にお金がかかります。大きな作品は一人では出来ないで、大勢の人の力で出来上がっているわけです。

作品のイメージは、作る前から私の頭の中には出来上がっています。超越した世界に入り込んでいるのかもしれませんが、かなり具体的に作品の構想は出来上がっています。決して、思いつきではなく綿密な考えに基づいて現実的に考えています。その構想の実現を信じるのだと思います。前衛芸術家は、見ていただく人に「これはなんだ！」と興味を持ってもらいたいか、何かを感じてもらいたいとは思っていますが、理解してほしいという思いはありません。自分の考えに自負を持っています。うぬぼれなのかもしれませんが、強い自己主張による裏付けがあります。

**一構想は変わることはないのですか。**

大枠の構想は変わりませんが実際に造る段階で、毎日、設計図をたくさん書いています。古い設計図はすぐに捨てます。その時にイメージしたことを大切にしています。そして、そのイメージは毎日変わります。

**一題名は作品を造ってから付けるのですか。**

作品を造ってから付ける場合もありますし、作品を造る前から付ける場合も両方あります。題名は、地方に出張して作品を造っているときには、地方の人々の会話から思い付いたりします。題名を考えるのに悩んでいるときはないと思います。(奥さんからも「家で悩んでいるところを見たことはありません。」との証言がありました。)

**一海外に作品を造ることはありますか。**

あります。国際的な文化交流は相手の国が平和で、双方が良い関係にないと出来ません。ある国でクーデターが起き、その時はお断りしたことがあります。また、中国の留学生が「モクモク ワクワク ヨコハマ ヨーヨー」を評価してくれ、留学生の機関紙の表

紙に採用されたことがあります。それがきっかけとなり、中国にも作品があります。

**一良くできなかったと思う作品はありますか。**

正直なところあります。それは、造形物としては良いのですが、イメージを一つに絞れなかったものです。新しい交通機関が同時に二つでき、それを祝う目的で何か造形物を造ってほしいと依頼を受けました。目的が二つあり、どうしてもイメージが絞れなかった。これは難しかった。

**一近隣の作品を紹介してください。**

大きな作品としては、横須賀市文化会館のある横須賀中央公園に「平和のモニュメント」があります。1989年(平成元年)に「核兵器廃絶、平和都市宣言」を記念して建てました。大きな作品でステンレスに白いビニールを貼ったものです。一本の棒がないと倒れてしまいますが、この支えているつかい棒が大事なのです。作品の下から見上げると棒が不安定なものを突き上げている様子が判ります。



写真5 横須賀中央公園にある平和のモニュメント

小さい作品は、横須賀中央駅の近くの児童図書館の前の広場にあります。駅の近くで、素行不良の少年が集まって困るとの横須賀市の依頼を受けて、題名「オープン ザ コスモ・ヨコスカ」を造りました。無限大の記号を一筆書きで続けた単純なモニュメントですが、この新しい造形物が空間に加わったことで、環境



が変わったそうです。依頼者から素行不良の少年が集まらなくなったとの報告を受けました。

空間の雰囲気を変えるのに、花壇や樹木だけでなく、このようなモニュメントも役に立つことが判りました。



写真6「オープン ザ コスモ・ヨコスカ」

その他、横須賀美術館に「コンチキチノロ」(1985年)、東京国立近代美術館に「ドヂ」(1971年)と「トッピンシャン」(1972年)、国立国際美術館に「トンカラリン」(1968-69年)と「コレワ・コレワ」(1975年)、東京都美術館に「イロハニホヘトチリヌルヲワカタレソツネ・・・ン」(1979年)などが所蔵品としてあります。

### 一迷える若い人にメッセージはありますか。

結局、自分で道を開くしかない。自分で「出来る」ということを信じ続けることだと思う。そして、具体的に「綿密に考える」ことだと思う。

### (インタビューを終えて)

作品を造り上げる時、「自分の考え」を信じ続けるとのメッセージがありました。自分の考えに自負(自信と誇り)を持ち、「出来る」ということを信じ続けるには、まず、自分を磨くことが必要であると思いました。

また、目的を絞り明確にすることや具現化する時に「綿密に考える」ことは、芸術の分野だけでなく、私達の技術コンサルタントでも大事なことと教えられました。

横浜のみなとみらいにある「モクモク ワクワク ヨコハマ ヨーヨー」を見上げるたびに元気がでるのは、自負のエネルギーで造り上げたからだと確信しました。

2014年1月